

受講番号 18096 学校名 中村中学校 氏名 寺岡志浩

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 2年生 生徒数 20名
 科目名 2年生 単位数(授業時数) 3時間 使用教科書名 SUNSHINE ENGLISH COURSE 2 (開隆堂)

クラスの様子・特徴

本学級の生徒はほとんどが人なつこく、明るく、きまりなどもよく守れて何事にもまじめに取り組むことができる。対象学級の20名は2分割の普通コースの生徒達で、大半が大きな声で音読でき、発表もよくできる。ペアワークなども楽しみながら取り組める。

問題の確定

テストでは正しい答えが書けていても スペルミスによる失点が多い。単語を正確に覚え、簡単な英文を正しく書く力をつけたい。

予備調査

A 授業の観察

単語テストの予告をし、テスト直前の様子や新出単語の学習への取り組み、弾丸インプットへの取り組みなどを観察してみた。新出単語の発音練習や弾丸インプット、フラッシュカードでの発音練習には意欲的だが、書いて覚えようとする意識がまだ弱い。

B 生徒による授業評価

授業に対するアンケートでは「書く力」をつけたいという意見が60%強と圧倒的に多く(他は40%程度)授業の中で難しいと感じるところもリスニングに次いで「書くこと」「単語を覚えること」があげられた。

C 学力データ

3月実施のCRTテストでは「聞くこと103話すこと109読むこと105書くこと103」と全領域で全国平均を上回っている。また、単元テストでも平均得点率は78.7%だが「表現の力」での得点率が66.8%で他(80~90%)と比べかなり落ちる。

リサーチ・クエスト

7割以上の生徒が既習の文型を使って身の回りのことや自分のことを、コミュニケーションに最低限必要な正確さを持った文で表現できるようにするにはどのような指導を行えばよいか。

仮説・実践・検証

仮説1

単語を正確に覚えさせる工夫をし、その力がついてくれば文を書くことに対する興味も深まるのではないかと。

実践1

それぞれの生徒からアンケートをとり、各自の単語の覚え方を書かせ、それをまとめたプリントを作成し、配布、指導して練習させた。その後単語テストの得点がどう変化していくかを調べた。出題範囲のプリントを配布し、家庭で練習してくるよう指示した。教科書に出てくる単語以外に、新出文型に合わせてよく使いそうな単語も入れておくようにした。

検証1

日々の家庭学習の状況や問題の難易度によって結果が左右されるが、13回行った単語テストの平均点は10点満点で6.4~8.8点であった。全体的には、少しずつ平均点が上がっていく傾向にある。3学期以降も続けていくことで、さらに上がって行くことが見込めるのではないだろうか。

仮説2

新出文型においてペアワークなどによる口頭練習を充実させ、言葉で表現できる力を養えば、書く力にもつながっていくのではないかと。

実践2

ペアワークや全体での活動を多く取り入れ、口頭練習をしたあとで、簡単な英作文をさせる取り組みをした。英作文のあとは、全体で答え合わせをしたり、時間がなくなるときには添削指導を繰り返した。

検証2

表現の能力で、A判定の生徒が1学期末は30%であったが、2学期末には70%まで向上した。テストの難易度も関係するが、ある一定力が向上したのではないかという感触が得られた。

仮説3

授業で口頭練習した新出文型などを練習のみに終わらせず、小テスト(2~3問の英作文)として定期的に行えば、書く力の向上につながるのではないかと。

実践3

小テストの出題範囲に合わせて、新出文型や既習の文型で一定期間に練習したもの(プリントやノート)を提出させ、できばえの傾向を見ていくとともに添削指導を行った。その後3時間に1度程度のサイクルでテストを行った。

検証3

英作文の小テストは、2学期には8回しかできなかったが、仮説2での作文練習も同時に行っていたので、思っていたよりはよく書けていた。Aと判定されるものは20~50%程度であり高い数値とは言えないが、B判定(意味が通じる程度に書けている)を合わせると55~81.6%という結果が得られた。一定の成果が上がっていると判断できるのではないだろうか。

研究の成果

毎日の授業の中で単語テストや小テストを繰り返し、その時々にはあまり大きな成果は感じていなかったが、何ヶ月か続けていくうちに少しずつ進歩が見られるようになった。生徒が苦手と感じていた英作文についても意欲やできたときの喜びが見られるようになった。些細な進歩ではあっても生徒や教師にとっては嬉しいことである。今までは「忙しい」を口実にその日その日の授業を消化するだけの状態に陥っていたのではないだろうか。今回の研究で生徒に力をつけるための具体的な方法の考え方が分かってきた。それが何よりも大きな成果であろう。

今後の授業改善の課題

生徒に達成感を与えるための工夫が不十分であった。自分がデータを集めるだけでなく、生徒にも日々の進歩の状態が分かるような記入用紙を持たせるようにしたい。また、英文を作るにあたっては文法的な課題が残っている。生徒に抵抗感を持たせずに文法事項を理解・定着させていく工夫をしたい。